

**カ** **ばらの開花を宣言**  
～かのやばら祭り2009春～



4月23日、かのやばら園で、「ばらの開花宣言」が行われました。当日は、海上自衛隊鹿屋基地のヘリコプターによる祝賀飛行や南部幼稚園の園児による歌などが披露されたあと、ばらの開花を宣言。最後に、くす玉を割って開花を祝いました。今年のばらは、天候の影響などで例年より一週間ほど早く開花。ゴールデンウィーク期間中に満開を迎えましたが、6月下旬まで楽しむことができます。なお、「かのやばら祭り2009春」は6月7日まで開催されています。



**鹿屋** **カサゴの稚魚**  
10,000匹放流



4月24日、古江町の古江漁港の沖合で、ふ化後3か月のカサゴの稚魚10,000匹の放流が行われました。これは、資源の保護や生産の増大、採る漁業から作り育てる漁業への移行などを目的に市と漁協が共同で行なったもので、今年で6年目。関係者が、カサゴの成長を願いながら放流すると、元気よく海を泳いでいきました。

**鹿屋** **平和の誓い新たに**



式辞を述べる山下市長



特攻隊員の冥福を祈って献花する全国から駆けつけた遺族



慰霊碑に向かって行われた儀仗隊による弔銃

4月4日、今坂町の小塚公園で、「旧鹿屋航空基地特別攻撃隊戦没者追悼式」が行われ、全国各地から遺族や元隊員など約450人が参列しました。この追悼式は、国内最大級だった旧海軍鹿屋航空基地から特別攻撃隊として出撃していった16歳から35歳の隊員908人の御霊を慰めようといわれているもので、今年で52回目。式典では、参列者全員で国歌を斉唱した後、特別攻撃作戦などで戦死した御霊に黙祷を捧げました。山下市長は「隊員の無念を想う時、深い悲しみが込み上げ、ご遺族の長年の幾多の労苦と心情を思うと胸が痛む。恒久平和の実現に努力することを誓う」と式辞を述べました。その後、桜の花が舞う下で、参列者による献花に続いて遺書朗読、生存者による「同期の桜」の合唱が行われ、戦没者の冥福を祈り、不戦と恒久平和の誓いを新たにしました。



遺書朗読に涙する参列者

**輝北** **畜産振興を祈願**  
～日枝神社畜産まつり～



4月12日、輝北町市成で「日枝神社畜産まつり」が開催されました。このまつりは、牛馬の神として知られ「山王どん」の愛称で親しまれている日枝神社で、畜産振興を祈願して毎年行われているもの。まつりでは、カラオケや踊りが披露されたほか、弓道大会や三味線演奏などが行われ、訪れた約3,000人が春のまつりを楽しみました。また、畜産まつり恒例の抽選会では、宮下里美さん（輝北町市成）が特賞の黒毛和牛の子牛1頭を見事引き当て、観客の拍手を浴びていました。

**吾平** **早期水稻の田植えを体験**  
～鶴峰小学校全校児童～



4月7日、吾平町の鶴峰小学校近くの田んぼで、鶴峰小学校全校児童77人が、早期水稻の田植えを体験しました。これは、米作りを通して豊かな人間性を育てようと毎年行われているもの。当日は、全員で広さ300㎡の水田に入り、一列に並んで田植えを行いました。参加した子どもたちは、初めは泥の感触に慣れずに大騒ぎでしたが、最後は「おいしいお米に育てて」と願いながら一生懸命に苗を植えていました。今年の米作りは、3・4年生が専門家から意見を聴きながら、自分たちで耕作計画を立て、無農薬栽培に取り組んでいます。

**鹿屋** **70年間の思いかなえる**  
～公園に桜13本を植樹～



4月16日、王子町の和田井堰公園で桜の寄贈式が行われ、敷地24,300㎡のうち東側2,000㎡にソメイヨシノ13本が植樹されました。寄贈したのは、王子町在住の木佐貫さん（78歳）。木佐貫さんが8歳当時、父親と今坂町の柳水源地に桜を植樹したところ、地域の憩いの場となった思い出があり、それ以来70年間、「父親と同様に、地域の憩いの場所に桜を植樹したい」と思い続け、その思いを今回かなえたもの。木佐貫さん夫婦は「来春には大勢の花見客で賑わうと嬉しいです」とにこやかに話してくれました。

**鹿屋** **灯籠を流し平和を願う**



4月4日、リナシティかのや前の肝属川で、太平洋戦争中に旧海軍鹿屋航空基地から飛び立った特攻隊員の霊を慰める灯籠流しが行われました。この企画は、「特攻隊追悼灯籠流し市民有志の会」が特攻の歴史を後世に伝えようと、5年前から行われているもので、今年は、県内外から約50人のボランティアが参加して運営に協力。会場には、戦没者の遺族や関係者など多くの人が訪れ、戦没者908人の名前が書かれた灯籠200個が、川面を照らして流れる様子を見つめながら、戦争の悲惨さを風化させることのないようにと改めて平和を願いました。